

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立中川副小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童（中学校3年生生徒）

■ 調査の内容

（1） 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

（2） 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

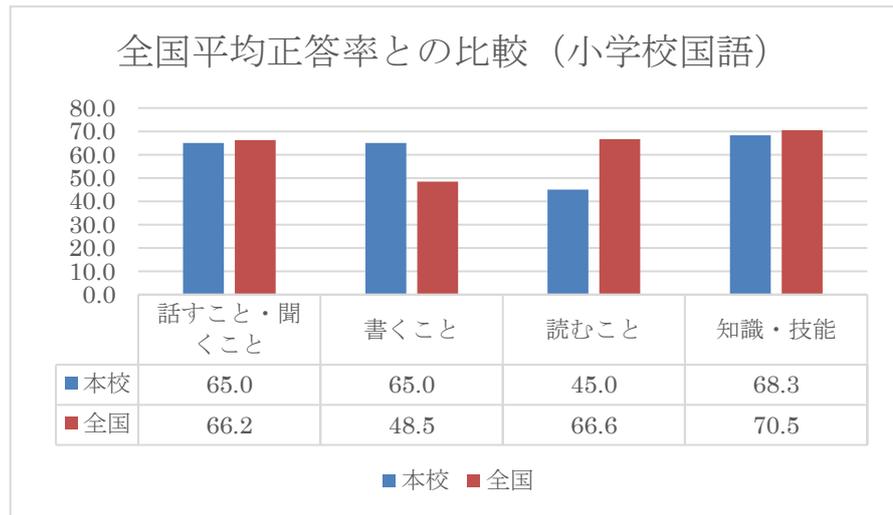
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

Ⅰ 国語



(1) 結果

平均正答率をみると、本校61（%）は全国平均65.6（%）を下回りました。4領域のうち1領域「書くこと」は、全国平均正答率を大きく上回りましたが、「読むこと」の領域では大きく下回りました。また、観点別に見ると話し合いの在り方や説明の仕方については、本校での教育活動が生かされ、全国平均と比較すると高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「書くこと」が16.5ポイントと大きく上回りました。国語科のみならず、複数の教科で書く活動を多く設定したことが児童の表現力の高まりにつながったと考えられます。一方、「読むこと」の領域では「選択式」「記述式」のいずれも全国平均を下回り、特に「記述式」の無解答率の高さが課題として残りました。一度書いた解答を消したり、書くことを躊躇したりする様子が見られ、自分の考えに自信を持たせていく必要があります。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなすのは言葉の力であり、言葉の特徴や使い方に関する事項において、全国平均正答率よりやや下回っているため、今後も継続して授業改善を図り、日々の授業で「知識」の習得のみならず、子どもたちが主体的に学び、互いの考えを深める力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

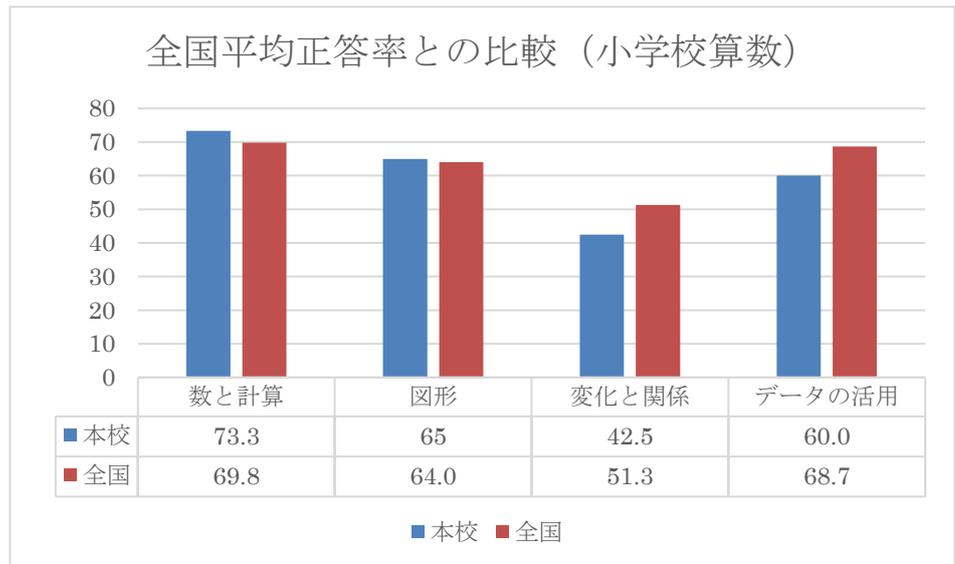
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く活動を充実させます。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。読書は「心の栄養」とも言われます。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げるだけでなく、情操教育にもつながります。すき間読書の習慣がつくと、忙しい中でも本に親しむことができます。また、公立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「A 数と計算」や「B 図形」のように知識を問う領域においては、全国平均を上回っています。一方、「C 変化と関係」や「D データの活用」のように思考を問う領域においては全国平均をやや下回っています。また、「記述式」の問題形式になると、無解答率が高くなっていることが分かりました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と計算」の領域は 3.5 ポイント、「B 図形」の領域は 1.0 ポイント、ともに全国平均正答率を上回っていました。また、日常生活に関連のある問題に対しても、これまで培ってきた知識を活用して解答することができていました。一方、「C 変化と関係」の領域では、果汁と飲み物の量の関係性を問う割合の問題、「D データの活用」の領域では、分類整理されたデータの読み取りに関する問題において、全国平均正答率を大きく下回りました。また、全国平均正答率を上回っていた「B 図形」の領域であっても、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き換える問題では課題が見られました。プログラミングに関しては、一人一台端末を活用して今後も指導の充実を図ります。

今後、日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

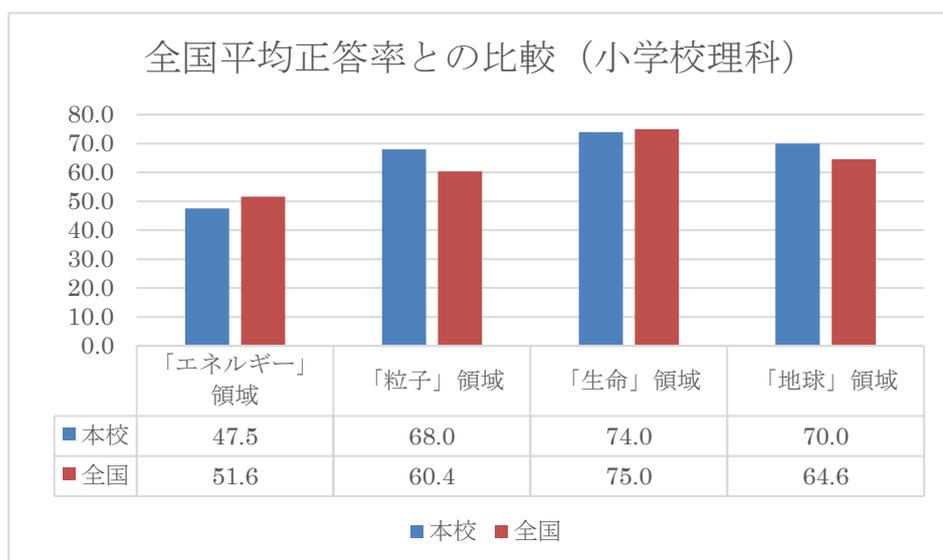
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見付け、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けて割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

3 理科



(1) 結果

平均正答率をみると、本校65（%）は全国平均63.3（%）を上回りました。領域別に見ると、「粒子」の領域と「地球」の領域で全国平均を上回り、「エネルギー」の領域と「生命」の領域で全国平均を下回っています。また、無解答率を見ると、ほぼ記述式の問題において全国平均より高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「粒子」の領域で8.4ポイント、「地球」の領域で5.4ポイント、それぞれ全国平均正答率を上回っていました。どの領域でも実験・観察の見通しや結果からの考察、学習内容のまとめという点で課題が見られました。現学年とこれまでの学年で学習した内容に関連付けながら復習するとともに、実験・観察の意図（めあて）からまとめに至るまでの過程についても確認していく必要があると考えます。また、「エネルギー」の領域で4.1ポイント、「生命」の領域で1.0ポイント、それぞれ全国平均正答率を下回っています。実験・観察の意図をきちんと把握し、その結果の分析、解釈を通して、自分なりに学習内容をまとめたり、自分の考えを表現したりする力を身に付けさせていく必要があります。

今後も日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 目的意識をもった実験・観察を行うための基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→まとめ(ふりかえり)」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの宿題プリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	60 %	84.9 %
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	20 %	40.7 %
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	50 %	56.8 %
自分にはよいところがあると思いますか。	30 %	39.4 %
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	30 %	27.6 %
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	80 %	75.1 %
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	90 %	83.9 %

朝食・起床・就寝については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

挑戦心や規範意識の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	20 %	27.5 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0 %	11.3 %
「2時間以上、3時間より少ない」	20 %	13.8 %
「1時間以上、2時間より少ない」	40 %	34.3 %
「30分以上、1時間より少ない」	40 %	25.8 %
「30分より少ない」	0 %	10.5 %
「全くしない」	0 %	4.2 %

家庭学習については全国平均と比べやや低い結果が出ています。学習時間でみると、1時間以上3時間未満の児童が6割、30分以上1時間未満の児童が4割いました。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。これから中学年にも少しずつ広げていきます。
- 始業前（8：05～8：15）の朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が現れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活と家庭学習の定着は、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。
- ゲームやテレビ等の視聴時間は適切か、時間の使い方に計画性はあるかなど生活時間についてお子さんと話し合ってみてください。一緒にルールを決めるなど、自律の手助けをお願いします。